

## 事業報告書 (令和 3 年度)

事業名 地域を活かす農業と食の安全

団体名 おかやまエコマインドネットワーク

担当者名 藤原 幸蔵

※活動の様子がわかる写真（データもお願いします）と説明を必ず添付してください。

### 1. 活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

日時 令和2年11月27日 10:00~12:30

場所 岡山市操山公民館

参加対象者 一般地域住民 35人

講師 3人

おかやまエコマインドネットワーク会員 3人

参加者計 41人

### 活動内容

- 1 農業生産法人ワッカファーム代表・佐々木竜也氏の講演  
佐々木氏と就農を志す若者が耕作放棄地を開墾し無農薬完全露地栽培の野菜を生産し販売している。取り組んでいる農業の姿を紹介するとともに、何故、取り組んでいるか、無農薬などの考え方、種等について講演を実施。
- 2 フェアトレードについての講演  
フェアトレードについて、岡山フェアトレードの会の片岡氏により、クイズを交え分かり易く説明。
- 3 地元の人の声  
当会員の行枝から、家庭菜園などに関する情報提供
- 4 意見交換・交流  
コロナ禍を考慮し、公民館様と直前まで協議し、意見交換・交流は中止とした。それで、アンケート記入の時間の延長及びその時間に質疑応答等も実施した。また講演の内容をより直感的に理解し、定着されることを期待していた試食も中止とした。なお、試食のため用意した食材（野菜・バナナ）は、参加者に分配し、自宅にて、より深い理解が進むことを期待した。

### 2. ESDの視点を取り入れたところ、ESDの視点で見直したところ

ワッカファーム佐々木氏が実践する農業は在来種を使った有機無農薬栽培で、持続可能となっている。また、生産者の顔が見え、安心できる食料を提供している。  
フェアトレードの会片岡氏の講演は、身近なバナナを教材に、クイズを交えて、取っ付きにくい内容を分かり易く展開をされており、理解が深まったと思う。  
ESDで重要とされている社会・経済・環境のバランスについて、分かり易く無理なく理解できたのではないかと考える。

### 3. 取組の成果（参加者にどのような意識や行動の教育上の成果があったか。感想など）

参加者アンケートの結果、次のような意見、感想があった。

- ・参加者の年齢層が高いことが課題でしょうか
- ・人が生きるために根源を知らなければ、中間ばかり知っても解決しません。
- ・佐々木さんの話とても分かり易かった説得力あり。フェアトレード = 日頃の消費者生活を考え直せた。行枝さんのお話、行動もすばらしい。生産と消費のバランス良い内容だと思いました
- ・賞味期限は問題にしていない。腐ってもなければ食べられる。食品ロスの問題は本当にもっとを活用できないかと思う。企業(店)として安く売るとか
- ・まずは自分の周りからフードロスなどを減らしていく。使い切るように自分ができること、家庭から少しずつ、続けていくことが大切だと思いました。そして悪いものを社会からなくしていける運動ができれば

いいなと思います。

- ・もうされているかもしれませんが、子ども達(我が子にも)聞かせたい内容で良かったです
- ・ワッカファームの佐々木さんの説明で細について、野菜についての仕組み基礎考えが伝わってきました。これからも頑張ってください。フェアトレードの会初めて知りました。作る人、社会、地球環境への思いやを考え、買い物の際、購入したいと思います。
- ・佐々木さんの農業に対する情熱が伝わってきました。私も知らないことばかりですが日々の生活に追われて、何も考えていなかったのかな一つ、でも子ども達に安全安心な食べ物をと、願って購入していました。これからでも自分の体への思いやりを持って野菜を選び食べたいです。フェアトレード買い物基準、バナナクイズで考えさせられました。“誰かの笑顔につながる”っていいですね、ストーリーのある商品、利用しますね。

アンケート全般の印象として、自発的な意見・自分自身の言葉による記述が増えてきていると感じられた。また、目的と手段が明確になってきているようにも感じられた。以上のことから、私達の思いを受け入れ、理解・共感してくれて、なお一步、自ら前に進んでいるように感じられて満足している。

#### 4. 今後の課題と展望

今回は、コロナ禍を考慮し、前回まで実施していた、子ども用プログラム「チョコバナナづくり」の実施はしないこととし、当然、周辺小学校への子ども向けチラシの配付はしなかった。これは、子育て世代の集客を狙っての施策だったが、次回には実施を努力したいと考えている。

ただ、講演内容を直観的に理解してもらうには、試食が手っ取り早く効果的であると考えられ、実施をめざし、食材は手配し、公民館様と当日まで協議しましたが、やはり試食は無理ということで、中止となったが、今回は実施できる状況となっていることを望んでいる。また、手配済みの食材は、参加者に分配し、自宅でさらに理解を深めてもらったと考える。

今回、コロナ禍にもかかわらず、倉敷市、総社市など、操山公民館から離れたところからの参加者、当団体にて作成した「食品ロス」に関する DVD を通じての参加者もあった。テレビなどで、「食品ロス」に関するテーマがとりあげられ、関心が深まっていたことも感じられた。アンケートからも食の安全を考えることは、食品ロス削減につながることで理解が深まっているように感じられた。今後も、“食”に中心とした活動の継続は必須であると、考えている。今後は食品ロス削減との連携を明確にしたイベントをいろいろな地域で開催できればと考えている。小学校等を巻き込んだサルベージパーティー等の展開も楽しく、効果的であると考えている。